TOPICS

第13回日本－ボリビア 国際医学・消化器シンポジウム

特定非営利活動法人日本-ボリビア医療友好協会 理事長
一般社団法人日本ボリビア協会 副会長
国際医療福祉大学臨床医学研究センター 教授・山王メディカルセンター
森下 鉄夫

今年は、1899（明治32）年にボリビアへ日本人移住が始まって120周年の記念の年です。

御報告が遅れましたが、第13回日本－ボリビア国際医学・消化器シンポジウム（XIII Simposio Internacional Boliviano-Japones de Medicina y Gastroenterologia）が、2016（平成28）年11月９日～11日南米のボリビア多民族国（旧ボリビア共和国）のサンタ・クルス・デ・ラ・シエラ市（サンタクルス）のホテルカミノレアルで、開催されました（写真①）。

サンタクルスはボリビア東部にあり、17世紀半ばから移住したスペイン人により建設されましたが、長い間交通が不便で孤立都市といわれ、純粋のスペイン系美人が多い町としても知られていました。日本の政府開発援助により1983（昭和58）年に完成したビル・ビル国際空港を皮切りに空路が発展し、また首都ラパスより標高が低く（437m）温暖なため（年間平均気温約22℃）人口は急増し、現在ではボリビア第２の都市（人口約153万人）で商業の中心地でもあります。日本の大阪に当たるかもしれません。

◆◆◆

今回のシンポジウムは、ボリビア側会長をボリビア消化器病学会会長の Dr. Carlos Arjona が、副会長をサンタクルス消化器病学会会長の Dr. Rosario Zurita が、事務局長を Dr. Akitoshi Kamiya が務められました。Dr. Kamiya は慶應義塾大学の故石井裕正教授のもとに留学されました。日本側会長は森下が務めました。

日本から慶應義塾大学、千葉大学、防衛医科大学、東京女子医科大学、埼玉医科大学、獨協医科大学、順天堂大学、福島県立医科大学、国際医療福祉大学より15名の先生方が参加されました（写真②）。日本側より15の特別講演、ボリビア側より２題の指定講演が行われ、大腸癌の内視鏡診断について若手ボリビア人医師へのクイズ形式による教育セッションも設けられました。感染症の診断や SNPs の検索における LAMP 法や MinIONTM の応用、癌細胞排除におけるマクロファージの役割や大腸癌、炎症性腸疾患、Microscopic colitis、セリアック病、尿膜管遺残、インフルエンザウイルス感染症、シャーガス病、生活習慣病、予防医学・人間ドックなど基礎・臨床医学の多岐にわたり、微小循環や最新の内視鏡診断・治療なども紹介され、大変充実したハイレベルな学術集会となりました。

シンポジウムには３日間延べ273名のボリビア人医師・医学生が出席されました。第１回（1962年）から第13回シンポジウムまで延べ202名の日本人医師、１名の日本人看護師、4,462

①シンポジウム会場
②日本の先生方

③ 日本側の答礼レセプション。ボリビア側役員の方々と共に。
④レセプションでは日本人女性医師による茶道のお手前やボリビア人女性への浴衣の着付けも披露されました。

名のボリビア人医師・医学生、295名の他国の医師、24名のボリビア人看護師が参加されました。

ボリビア側による歓迎レセプションはホテルでカクテルパーティーが開かれ、日本側の答礼レセプションでは日本－ボリビア交流会館でフォルクローレや民俗舞踊ショーを皆で堪能し（写真③）、毎回好評の日本人女性医師による茶道のお手前やボリビア人女性への浴衣の着付けが披露されました（写真④）。

◆◆◆

シンポジウム終了後にサンタクルス市より約100km離れたオキナワ第１移住地（Colonia Okinawa）とオキナワ診療所を（私としては約35年ぶりに）訪問しました。オキナワ移住地は第２次世界大戦後沖縄から移住された方々の大変な御努力と御苦労により発展しました。農業とくに小麦などの穀類の生産が盛んで、政府より自治行政区として認可され、政府よりボリビア小麦の首都（Capitol de Trigo）と認証されています。移住地は約５万ヘクタール（世田谷区の約10倍）の広さを有します。移住地の盛況によりボリビア人が国内各地より移り住み、人口が急速に増加し現在約12,000人ですが、日系人は約900人でむしろマイノリティーです。移住地内の文化会館、オキナワボリビア歴史資料館も見学しました。オキナワ診療所（写真⑤）は1979（昭和54）年に国際協力事業団（現国際協

⑤オキナワ診療所。
シンポジウム終了後、オキナワ第１移住地とオキナワ診療所を訪問しました。

力機構、JICA）により設立され、現在もJICAを通して日本より看護師、栄養士の方々が来られ活動されています。

◆◆◆

私たちは本シンポジウムを打ち解けた雰囲気のもとに国際友好を楽しみながら、消化器のみならず基礎・臨床医学の各領域さらには看護領域やコメディカル領域も含めた学際的学術集会および若手医療者の教育集会へ発展させることを目指しています。既に消化器病学に加え微小循環学、微生物学、感染症学、熱帯医学・寄生虫学、医化学、小児科、整形外科、泌尿器科、皮膚科、呼吸器科、腫瘍学、総合医学、予防医学、歯科・口腔外科、看護学、コンピュータテクノロジー領域の先生方が御講演くださっています。今後も諸先生の御参加をお願い申し上げます。なお、シンポジウムは英語・スペイン語・日本語間で同時通訳されます。

今回、開会式やセッション開始の遅延、サンタクルスの物価の高騰などに悩まされましたが、私たちは医学・医療を通した日本とボリビアの友好・協力に少しでもお役に立てればと願っています。

◆◆◆

御講演・御参加くださいました緒方晴彦先生、永田博司先生、竜崇正先生、三浦左千夫先生、南里清一郎先生、加藤博之先生、唐澤直子先生、前田卓也先生、今井一男先生、池野義彦先生、酒井純先生、東郷剛一先生、遠藤俊吾先生、加藤雅也先生（順不同）に深謝申し上げます。

参考文献

1）森下鉄夫：日本・ボリビア医療友好協会 . W'Waves, 9: 26-27, 2003.
2）Morishita T. : Non profit organization Japan-Bolivia ssociation for medicine and friendship. W'Waves, 14: 102-103, 2008.
3）森下鉄夫：第９回日本－ボリビア消化器国際シンポジウムと第30回パンアメリカン消化器病学会特別シンポジウム . W'Waves, 13: 24-25, 2007.
4）森下鉄夫：第10記念回日本－ボリビア消化器国際シンポジウム . W'Waves, 17: 34-35, 2011.
5）森下鉄夫：第11回日本－ボリビア国際消化器シンポジウム . W'Waves, 19:51-52, 2013.
6）森下鉄夫：第12回日本－ボリビア国際医学・消化器シンポジウム . W'Waves, 22: 21-22, 2016.

（特定非営利活動法人日本 - ボリビア医療友好協会ホームページ　http://www.nippon-bolivia-iryo-yuuko.jp）